

高知県感染症発生動向調査（週報）

2012年 第38週（9月17日～9月23日）

★ お知らせ

○ RSウイルス感染症に注意して！

定点医療機関からの報告が、定点当たり前週の0.53から0.47と減少しました。RSウイルス（Respiratory Syncytial Virus）は、上気道に感染し、その後細気管支炎、肺炎のような下気道感染を引き起こします。主な感染経路は飛沫感染と接触感染で、感染力が強く、また再感染例等で典型的な症状を呈さずにRSウイルス感染と気付かれない軽症例もあります。予防のポイントは、手洗いと咳エチケットです。飛沫感染対策としてはマスクを着用するなどして咳エチケットに努め、接触感染対策としては手洗いもしくは速乾性刷式アルコール製剤による手指消毒剤による手指衛生を励行しましょう。

○ マイコプラズマ肺炎に注意して！

定点医療機関からの報告が、定点当たり前週の0.63から0.75と増加しました。濃厚な接触により感染が成立し、家庭内などでの感染がよくみられます。感染を広げないためのポイントは、咳エチケットと手洗いです。

★ 県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数（人）	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	1. 4 3	幡多、中央東で増加したが、全体ではあまり変化はない。
ヘルパンギーナ	→	0. 8 0	中央西、須崎で増加し、注意報値を超している。全体ではあまり変化はない。
マイコプラズマ肺炎	→	0. 7 5	高知市で増加し、高知市、幡多では注意報値を超している。
流行性角結膜炎	→	0. 6 7	前週に引き続き、高知市のみ2名の患者がでた。
水痘	↘	0. 6 0	中央西で増加した。安芸では4週連続注意報値を超している。全体では減少している。

★ 地域別感染症発生状況



★ 病原体検出情報

前週搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
38	不明発疹症	2	男	須崎	Human herpes virus 6
38	不明発疹症	7	女	須崎	Human herpes virus 6
38	不明発疹症	6	女	須崎	Human herpes virus 6
38	不明発疹症	6	女	須崎	Human herpes virus 7
38	伝染性紅斑	5	男	須崎	Human herpes virus 7
38	百日咳	6	女	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>
38	百日咳	30	男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
38	マイコプラズマ肺炎	10	女	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
38	マイコプラズマ	29	男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
38	百日咳	7	男	中央東	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
38	マイコプラズマ	4	男	中央東	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
38	マイコプラズマ	6	女	中央東	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
38	百日咳	10	女	須崎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
37	感染性胃腸炎	5ヶ月	男	幡多	Salmonella Virchow
37	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	女	中央東	<i>Streptococcus pyogenes T28</i>

* 「保健所」について、患者の居住地を管轄する保健所名を記載する。

★ 全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	4	110	80歳代 (男)	中央東
				80歳代 (女)	高知市
				70歳代 (女)	中央西
				40歳代 (男)	須 崎
5類	梅 毒	1	7	30歳代 (男)	中央東

★ 定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
安 芸	田野病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 2例 (1歳女、2歳男) 帯状疱疹 1例 (4歳男)
中央東	早明浦病院小児科	下痢性大腸菌 O-18 1例 (10ヶ月男) マイコプラズマ肺炎 2例 (10歳女) 感染性胃腸炎 増多
	あけぼの小児クリニック	マイコプラズマ肺炎 2例 (4、6歳)
高知市	けら小児科・アレルギー科	サルモネラ O-7 腸炎 1例 (2歳女) マイコプラズマ肺炎 2例 (8歳男、14歳女)
	細木病院小児科	前週 サルモネラ O-7 1例 (9歳男)
中央西	日高クリニック	百日咳 2例 (2歳女: PT69、FHA752、39歳男: PT202、FHA110)
須 崎	もりはた小児科	37w 百日咳 1例 (6歳女)
幡 多	さたけ小児科	マイコプラズマ感染症 1例 (11歳男)

★ 全国情報

第36週 (9/3～9/9)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核404例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症124例、腸チフス3例

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎1例、デング熱12例、日本紅斑熱6例、レジオネラ症11例、レプトスピラ症1例、マラリア3例、ライム病1例

5類感染症：アメーバ赤痢15例、急性脳炎1例、クロイツフェルト・ヤコブ病4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群9例、梅毒12例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん72例、麻しん12例

報告遅れ：パラチフス1例、E型肝炎1例、エキノкокクス症2例、デング熱2例、日本紅斑熱1例、レプトスピラ症1例、急性脳炎5例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

◆RSウイルス感染症

RSウイルス感染症 (respiratory syncytial virus infection) は、病原体であるRSウイルスが伝播することによって発生する呼吸器感染症である。年齢を問わず、生涯にわたり顕性感染を繰り返し、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスの初感染を受けるとされている。乳幼児期においては非常に重要な疾患であり、特に生後数週間～数カ月間の時期においては母体からの移行抗体が存在するにもかかわらず、下気道の炎症を中心とした重篤な症状を引き起こす。

潜伏期間は2～8日、典型的には4～6日とされている。発熱、鼻汁などの上気道炎症が数日間続き、その後下気道症状が出現してくる。咳嗽、鼻汁などの上気道症状が2～3日続いた後、感染が下気道、とくに細気管支に及んだ場合には特徴的な病型である細気管支炎となる。細気管支炎例では、炎症性浮腫と分泌物、脱落上皮により細気管支が狭くなるに従って、呼吸性喘鳴、多呼吸、陥没呼吸などを呈するようになる。喀痰の貯留により無気肺を起こすことも珍しくない。心肺に基礎疾患を有する児においては、しばしば遷延化、重症化する。発熱は初期症状として普通に見られるが、呼吸状態の悪化により入院が必要となった際には体温は38℃以下になるか、あるいは平熱となっている場合が多い。RSウイルス感染症は、乳幼児の肺炎の原因の約50%、細気管支炎の50～90%を占めるとの報告もある。また、低出生体重児や、心肺系に基礎疾患があったり、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高く、临床上、公衆衛生上のインパクトは大きい。重篤な合併症として注意すべきものには無呼吸、ADH分泌異常症候群、急性脳症等がある。

RSウイルスの主な感染経路は飛沫感染と接触感染であるが、感染力が強く、また生涯にわたって何度も顕性感染を繰り返すといわれている。年長者の再感染例等では典型的な症状を呈さずにRSウイルス感染と気付かれない軽症例も多数存在することから、家族間の感染や乳幼児の集団生活施設等での流行を効果的に抑制することは困難である場合が多い。

RSウイルス感染症の発生動向については、感染症法改正 (2003年11月5日施行) により対象疾患となり、全国約3,000の小児科定点医療機関から毎週報告がなされている。診断は臨床症状のみでは不可能であることから、届出基準としてウイルスの分離・同定、迅速診断キットによる抗原検出、血清抗体検出 (中和反応または補体結合反応) による病原検査が必須とされている。臨床現場で最も簡便な迅速診断キット検査については、医療保険適用として入院例のみが対象であったが、2011年10月より従来の入院例に加えて乳児およびパリーブズマブ製剤の適応となる患者に対しても適用されることとなり、現在は外来診療の場においても活用されていることと推察される。RSウイルス感染症の小児科定点医療機関からの報告数は、例年冬期にピークが見られ、夏期は報告数が少ない状態が継続していたが、2011年、2012年と2年連続して7月頃から増加傾向がみられている。2012年の報告数は第28週以降9週連続して増加が続いており、特に第36週の報告数は2,785例と2週連続して急激な増加 (第34週1,164例、第35週1,998例) がみられている。都道府県別の報告数をみると、福岡県 (479)、東京都 (317)、宮崎県 (285)、大阪府 (174)、鹿児島県 (109)、山口県 (104)、広島県 (103)、埼玉県 (100) の順となっている。39都府県で前週の報告数よりも増加が認められており、宮崎県、大阪府、東京都で大きな増加がみられている。2012年第1～36週の累積報告数 (36,589) の年齢群別割合をみると、0歳44.6% (0～5カ月19.8%、6～11カ月24.8%)、1歳33.1%、2歳12.2%、3歳5.8%、4歳2.4%の順であり、0歳の報告割合が最多を占め、次いで1歳、2歳と年齢順であり、1歳以下で全報告数の約70%以上を、3歳以下で全報告数の90%以上を占めているのは、2004年以降変わりはなく、一方、今夏の報告数の増加が始まった第28週以降の9週間では、累積報告数10,206例中0歳からの報告割合が38.1% (0～5カ月15.4%、6～11カ月

22.7%)、1歳からの報告割合が39.4%、2歳13.7%であり、1歳の報告が最多を占めている。

感染症発生動向調査からは、RSウイルス感染症の流行の立ち上がりが近年早まってきているものと推察される。2012年の報告数は、第31週以降はこれまでで最も立ち上がりが早かった2011年の報告数をも上回っており、特に第35週以降は急激な増加を示している。RSウイルス感染症は、その重篤性や合併症から特に乳幼児において臨床的および公衆衛生的にインパクトの大きな感染症であり、今後の同疾患の報告数の推移についてはより一層の注意が必要である。

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第38週 平成24年9月17日(月)～平成24年9月23日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第38週							前週	全国(37週)	高知県(38週末累計)		全国(37週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計			H24/1/2～H24/9/23	H24/1/2～H24/9/16	
インフルエンザ	インフルエンザ										1,123 (0.23)	16,407 (341.81)	1,633,172 (332.76)	
小児科	咽頭結核熱			1				1	2 (0.07)	8 (0.27)	1,180 (0.38)	147 (4.90)	39,370 (12.54)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	8				2	14 (0.47)	20 (0.67)	2,777 (0.89)	1,694 (56.47)	209,142 (66.63)	
	感染性胃腸炎	1	13	25	1			3	43 (1.43)	45 (1.50)	10,053 (3.22)	6,381 (212.70)	775,387 (247.02)	
	水痘	5		9	1			3	18 (0.60)	24 (0.80)	1,298 (0.42)	1,817 (60.57)	140,435 (44.74)	
	手足口病			2					2 (0.07)	4 (0.13)	3,050 (0.98)	106 (3.53)	45,113 (14.37)	
	伝染性紅斑			4				2	6 (0.20)	6 (0.20)	225 (0.07)	810 (27.00)	18,774 (5.98)	
	突発性発疹	1		4	2		1	1	9 (0.30)	15 (0.50)	2,204 (0.71)	530 (17.67)	66,391 (21.15)	
	百日咳		1			2			3 (0.10)	2 (0.07)	92 (0.03)	307 (10.23)	3,110 (0.99)	
	ヘルパンギーナ		1	10	6		4	3	24 (0.80)	27 (0.90)	2,759 (0.88)	778 (25.93)	106,641 (33.97)	
	流行性耳下腺炎			4				4	8 (0.27)	13 (0.43)	1,260 (0.40)	615 (20.50)	55,086 (17.55)	
RSウイルス感染症	3	3	8					14 (0.47)	16 (0.53)	3,789 (1.21)	682 (22.73)	40,383 (12.86)		
眼科	急性出血性結膜炎										3 ()	1 (0.33)	378 (0.56)	
	流行性角結膜炎			2					2 (0.67)	2 (0.67)	410 (0.60)	32 (10.67)	13,918 (20.47)	
基幹	細菌性髄膜炎										6 (0.01)	8 (1.14)	352 (0.75)	
	無菌性髄膜炎			2					2 (0.25)	1 (0.13)	38 (0.08)	20 (2.86)	645 (1.38)	
	マイコプラズマ肺炎			5				1	6 (0.75)	5 (0.63)	509 (1.10)	162 (23.14)	15,164 (32.47)	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									2 (0.25)	16 (0.03)	12 (1.71)	592 (1.27)	
計	10	21	84	12	10	16	153			30,792	30,509	3,164,053		
(小児科定点当たり人数)	(5.00)	(3.00)	(6.81)	(4.00)	(5.00)	(3.00)	(4.78)				(804.04)			
前週	8	24	106	14	12	26		190						
(小児科定点当たり人数)	(4.00)	(3.43)	(8.82)	(4.66)	(6.00)	(5.00)		(6.00)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関) 定点当たり人数

定点当たり

第38週

定点名	疾病名	保健所	第38週							前週	全国(37週)	高知県(38週末累計)		全国(37週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計			H24/1/2～H24/9/23	H24/1/2～H24/9/16	
インフルエンザ	インフルエンザ										0.23	341.81	332.76	
小児科	咽頭結核熱			0.09				0.50	0.07	0.27	0.38	4.90	12.54	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	0.73				1.00	0.47	0.67	0.89	56.47	66.63	
	感染性胃腸炎	0.50	1.86	2.27	0.33			0.60	1.43	1.50	3.22	212.70	247.02	
	水痘	2.50		0.82	0.33			0.60	0.60	0.80	0.42	60.57	44.74	
	手足口病			0.18					0.07	0.13	0.98	3.53	14.37	
	伝染性紅斑			0.36				1.00	0.20	0.20	0.07	27.00	5.98	
	突発性発疹	0.50		0.36	0.67	0.50	0.20		0.30	0.50	0.71	17.67	21.15	
	百日咳		0.14		0.67				0.10	0.07	0.03	10.23	0.99	
	ヘルパンギーナ		0.14	0.91	2.00	2.00	0.60		0.80	0.90	0.88	25.93	33.97	
	流行性耳下腺炎			0.36				0.80	0.27	0.43	0.40	20.50	17.55	
RSウイルス感染症	1.50	0.43	0.73					0.47	0.53	1.21	22.73	12.86		
眼科	急性出血性結膜炎											0.33	0.56	
	流行性角結膜炎			2.00					0.67	0.67	0.60	10.67	20.47	
基幹	細菌性髄膜炎										0.01	1.14	0.75	
	無菌性髄膜炎			0.40					0.25	0.13	0.08	2.86	1.38	
	マイコプラズマ肺炎			1.00				1.00	0.75	0.63	1.10	23.14	32.47	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0.25	0.03	1.71	1.27	
計														
(小児科定点当たり人数)	5.00	3.00	6.81	4.00	5.00	3.00	4.78				804.04			
前週														
(小児科定点当たり人数)	4.00	3.43	8.82	4.66	6.00	5.00		6.00						

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1(保健衛生総合庁舎2階)
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869